

SNSとうまくつき合うために

香川県立観音寺第一高等学校 1年 石原舞佑

はじめに

現在、スマートフォンを利用する人のほとんどが「ライン」や「Twitter」といういわゆる SNS というコミュニケーション『ツール』が欠かせない存在となっている。私もその中の 1 人である。何か連絡をとったりするのはもちろんのこと、自分の考えや思いを簡単に共有することができる。まるで隣にいるかのようなやり取りができることは本当に素晴らしい。しかし、その便利なはずの『ツール』がニュースで取り上げられるのは、メリットよりデメリットの方がとても多い気がする。確かに、「ライン」を原因とするいじめの事件が後を絶たない。しかし、これは「ライン」を代表とするコミュニケーション『ツール』が若者を「いじめ」に走らせてしまったのだろうか。私は、そうではないと思う。SNS が発展する前に「心配」されていたことが現れたのではないだろうか。これだけ、便利なツールが発達し、生活の一部となるものに対して、「いじめ」につながるというだけで「スマートフォンの利用を禁止！」としてしまうのは、どうかと思う。やはり、どのような状況であれ、冷静になって考え、その言動が「どのような状況を招いてしまうのか。」をしっかりと見つめ直すことである。そして周囲の人が毅然とした態度で正す勇気がなくてはならないと考える。そうでなければ、これからより便利なコミュニケーション『ツール』が開発されたとしても、私たちの心が育たなければ、痛ましいニュースは繰り返されるであろう。

SNS の普及の背景にあるものを考え、SNS とうまく付き合うにはどうしたらいいのかを考察したい。

1. 時代の変化 黒電話からスマートフォン

目まぐるしい時代の変化に、『家庭環境』『人間関係』が対応しきれていないのではないだろうか。私が幼い頃、両親は携帯電話を片手に連絡している姿を見てきた。しかし、両親はここまで急速にコミュニケーション『ツール』が発達してしまうとは思っていなかったそうだ。両親が中高生の時期には『黒電話』というものが主流であり、各家庭を結ぶ【扉】的な存在であったそうだ。確かに、テレビで放送されている「ちびまる子ちゃん」や「ドラえもん」などに出てくる『黒電話』というものは、リビングにあるのではなく、必ず玄関をつなぐ廊下にある。そして、電話がかかってくると家族が応対してから、本人につなげるのが普通であったそうだ。そうすることで、家族みんながその内容（話題）を共有することができていた。しかし、時代とともに急速に電話が普及してくると、玄関先から部屋の中に電話を置くことが当たり前となり、コードレス機能を備えた電話機が登場する。そして、部屋に電話機が置かれる。このような環境になってしまうと、両親の目が離れたところで子どもたちだけの空間がつくられるようになり、子どもたちがどんなことをして

いるのか、どんな状況にいるのか、全くわからない『家庭環境』ができてしまう。そうなってしまうと、子どもたち同士で的確な判断ができなくなり、単純に「楽しい」「おもしろい」だけが先走りして事の重大さに気づかず、大きなトラブルに発展してしまうことが多くなっている。昔は、電話は両親を通じてのコミュニケーションだったので、困った状態になりかけると、相談することができた。そして、今では子ども同士がスマートフォンを保持し、子どもと子どもだけのつながりができてしまっている。そんな『人間関係』が構築されてしまうと、親はもちろん、それ以外の子どもも入りにくい状況になってしまう。親たちが子どもの『人間関係』に踏み入ることを子どもたちが嫌がる話はよく耳にする。私自身も気を付けなければならないと感じている。

2. 心の不安を招く SNS

家庭を取り巻くコミュニケーション『ツール』の変化から生じた固定化した『人間関係』が影響していると考えられるものがある。それは、スマートフォンを肌身離さず持ち歩いていないと、心が不安になってしまうということである。今の若者たちは SNS の発展とともに、人とのつながりが強くなり、一番大切なものは「友人」を挙げる人は少なくはない。そのため、「友人や周りから認められたい。」「友達の多さがその人の値打ちを決めてしまう。」と考える傾向が強いと感じる。特に「ライン」には、「既読」や「グループ」といった機能が、それをさらに助長させている。すぐに返事が来なかったり、誰かを除いた友人達が盛り上がっている様子を見たりしたとき、「自分は嫌われているのかも…。」「仲間外れにされているのではないか…。」と不安になる。しかし、本当に「友人の数がその人の価値を決めてしまう。」のだろうか。もっと周りに流されることなく、今の自分に「自信」を持ち、ぶれることなく進むべきでないかと自分に言い聞かせ、そして、周りの人にも伝えていきたい。

3. 心の安定を得る SNS

この論文を書くにあたり、両親から「今の SNS は、文字だけのやりとりになってしまい、相手の人の心情がつかみにくいのではないか。」と言われたことがある。確かに、昔は声で伝えることが主であり、その時に発せられる話し方や話すテンポから相手の心情を読み取ることができた。しかし、今の若者たちは、「心の奥に潜んでいる気持ち・悩みなどは文字に起こした方が伝えやすいのではないか。」と感じたことがあった。それは、心の電話相談を SNS『ツール』で受け付けることで、相談件数が大幅に増加したという記事を読んだ時である。これによって悩んでいる人たちが救われたと思うと、このような SNS『ツール』も存在していてよかったと感じる。きっと、文字にする作業が気持ちを落ち着かせることもあるのではないだろうか。また、文字では伝えることができない感情を「スタンプ」という機能で補うことができる。これを利用する中高生はとて多く、声の抑揚や話すテンポ以上にダイレクトに相手に伝えることができているのかもしれない。

これからの SNS のあり方

今、日本各地で、地球環境の変化による災害が起こり、大きな被害を残している。そんな時こそ必ず人はつながり、つながり合うことで、パワーをもらったり、心が癒されたり、苦境に立たされながらも「幸せ」を感じたりすることができる。その一役を担っているのが、SNS である。

これからますます情報産業が発達していくと、今私たちが想像できないような『ツール』が作り出され、それによって予測できないような事態が起こるかもしれない。しかし、今後どんなに時代が変わっても、それを産み出したり、扱ったりするのは私たち【人間】なのである。今身の回りにある便利なものも、手に取る人の使い方によっては、人を傷つける凶器になるかもしれない。

私たちの発展は、すべての人の「幸せ」を願うものである。周りの人とのつながり（コミュニケーション）がなくては、自分の幸せも訪れてこない。自分の「幸せ」を願うように、周りの「幸せ」を願うことのできるそんなつながり（コミュニケーション）を大切に社会をみんなで目指していきたい。

■参考文献

出典：「心の電話相談 SNS ニュース」

毎日新聞 2017 年 8 月 31 日